

地域におけるスポーツイベントの研究 (2)

— ボランティアの継続意欲を規定する要因の分析 —

○ 長ヶ原 誠 (鹿屋体育大学) 山口 泰雄 (神戸大学)
野川 春夫 (鹿屋体育大学) 菊池 秀夫 (鹿屋体育大学)

スポーツイベント 地域活性化 ボランティア 継続意欲

1. 緒言

現在、地域活性化を目的とした各種イベントが全国各地において盛んに開催されている。(財)地域活性化センターが行った調査(1989)によると、平成元年の10月から翌年の3月にかけて開催予定であった全国の地域イベント総数は5,243件に上り、対前年同期比で見ると29.8%の増加率であることが報告されている。しかしながら、地域イベントはこのような増加傾向を示している一方で、内容的には一過性、画一性、他力依存性、あるいはハード先行性などに代表される問題点が指摘されるようになってきた。

本来、地域活性化には、明確な長期的ビジョンを掲げた地域づくりに示される恒常的性質と、地域住民の協力体制や積極的な地域活動に見られる内発的性質が望まれる。このような意味から地域活性化を目的とした地域イベントにおいても、開催の定着に加えて地域住民による継続的かつ直接的参加が不可欠となり、特に大会運営に強い影響を及ぼすボランティア活動とその活動継続性が重要な意味を持つものと考えられる。

わが国のスポーツ・レジャーに関する研究領域について見てみると、地域イベントの運営に携わるボランティアを対象とした研究は最近になってようやく行われるようになってきた。この中でもボランティアの活動満足と継続意欲との関連を、初参加者と活動継続者において比較分析を行った綿ら(1989)による研究報告や、ボランティア活動の継続意欲を説明する因果関係モデルを設定し、パス解析によりモデルの妥当性を実証した山口ら(1989)の研究成果は、内発的あるいは恒常的な地域イベントを支えるボランティアの継続性を考える上で重要な示唆を与えてくれる。

本研究では以上のような社会的背景と研究知見を踏まえ、地域のスポーツイベントにおけるボランティア活動の継続意欲を規定する要因を明らかにすることを目的とした。

2. 研究の方法

①調査方法

1990年度に開催された「指宿・菜の花マラソン大会」の運営に携わるボランティアを対象として、インタビュー法による質問紙調査を実施した。調査期日は同年の1月14日であり、回収した結果、サンプル数は男性が64(34.4%)、女性が122(65.6%)、計186となった。

②分析方法

ボランティア活動の継続意欲を規定している要因を明らかにするために、はじめに継続意欲を従属変数として、計23個の独立変数に対しピアソンの相関分析を行った。この結果、5%レベルで有意性が認められた変数だけを抽出し、このうち内部相関の高い変数は合成を行いながら最終的に7つの独立変数を設定した(Table-1参照)。さらに、抽出された7つの独立変数に対し、継続意欲を従属変数として重回帰分析(simultaneous model)を行い、重相関係数、決定係数、標準偏回帰係数を算出し、ボランティア活動の継続意欲に対する変数の規定力を分析・検討した。

3. 結果および考察

Table-2 は、重回帰分析により標準偏回帰係数の高かった独立変数を順に列挙したものである。分析の結果、個人的ボランティア動機は社会的ボランティア動機よりも継続意欲に対して強い規定力を示した。つまり、選手や大会運営、地域活性化への貢献などの社会的関心によるボランティア動機よりも、ボランティア活動やスポーツへの興味などの個人的関心によるボランティア動機が強い者ほど、継続意欲も高くなる傾向が見られた。これは、達成動機よりもボランティア動機が継続意欲に対して直接的に強い規定力を持っているとした、山口ら（1989）の研究結果と同様の傾向を示すものである。また対象者の特性として、年齢が高く、ボランティア経験がある者ほど継続意欲が高いという傾向が明らかとなったが、これはその一方で、若年層や初参加者の継続意欲がかなり低いという今後考慮すべき重要な問題性を示唆するものでもある。また、運動・スポーツ実施頻度が高い者は、ボランティア継続意欲も高い傾向を示しており、これは前述した通り、個人的ボランティア動機においてスポーツへの興味が強い者の継続意欲が高いといった本研究の結果を裏付けるものであろう。概して、今後のスポーツイベントにおけるボランティアの継続性を高めるには、特に若年層や初参加者に対して、ボランティア活動が自己にいかなる意味と価値をもたらすのかという個人的動機を高めることに注目する必要があると思われる。

Table-1 独立変数の説明

独立変数	操作定義
年齢	対象者の年齢
運動・スポーツ実施頻度	日頃の運動やスポーツ活動の実施頻度（4段階尺度）
ボランティア経験	本大会におけるボランティア参加回数 (ダミー変数：1. リピーター 0. 初参加者)
個人的ボランティア動機	ボランティア活動やスポーツへの興味などの個人的関心によるボランティア動機 (4段階尺度：2項目による合成変数) ¹⁾
社会的ボランティア動機	選手、大会運営、地域活性化への貢献などの社会的関心によるボランティア動機 (4段階尺度：3項目による合成変数) ¹⁾
個人的活動満足	役割の達成感や非日常性の獲得などのボランティア活動による個人的満足度 (4段階尺度：2項目による合成変数) ¹⁾
対人的活動満足	選手に対する貢献や他のボランティアとの交流などのボランティア活動による対人的な活動満足度 (4段階尺度：2項目による合成変数) ¹⁾

¹⁾ 各項目の合計得点による総和尺度を適用した。

Table-2 ボランティア活動の継続意欲を規定する要因

独立変数	標準偏回帰係数	単相関係数
個人的ボランティア動機	. 198 *	. 332 **
年齢	. 171 *	. 277 **
運動・スポーツ実施頻度	. 166 *	. 198 **
ボランティア経験	. 156 *	. 253 **
対人的活動満足	. 145	. 297 **
社会的ボランティア動機	. 054	. 286 **
個人的活動満足	. 019	. 229 **
重相関係数	. 498	
決定係数	. 248	
N	186	

* P<. 05 ** P<. 01